様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 １８ 日現在

機関番号：３２６３６
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2018～2023
課題番号：１８Ｋ０１４１７

研究課題名（和文）日中戦争における日本と中国共産党の相互関係：マルチ資料と複眼的視点による学術研究

研究課題名（英文）Mutual relationship between Japan and the Chinese Communist Party during the Sino-Japanese War: Academic research using multiple sources and multiple perspectives

研究代表者
鹿　錫俊（LU, XIJUN）

大東文化大学・国際関係学部・教授

研究者番号：２０２７２７８４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,300,000円

研究成果の概要（和文）：　コロナ禍による障害を克服しながら研究に励み、課題を総合的に解明するための資料的基礎を築いた。その上で、学会発表を11回行い、学術論文5件、共著書3件、単著書1件をまとめ、民間団体での講演会やNHKスペシャルなどの番組制作にも協力した。これらの成果は学界で肯定的な評価を受けており、集大成的な単著書は2024年度の研究成果公開促進費（学術図書）に採択され、東京大学出版会より出版されることになっている。また、海外でも本研究の成果に対する注目度が高く、単著書の中国語版の出版について依頼を受けている。

研究成果の学術的意義や社会的意義
「防共」と「抗日」の優先順位をめぐる葛藤という新しい視角から、従来見落とされた中国の対日・対ソ政策の重要な側面を実証的に解明し、日、中、ソ三国と中国国民党、中国共産党という「三国四方による日中戦争史」の研究に存在している空白の一部を埋めた。また、二国間関係の研究と多国間関係研究の相互補完を図るとともに、貴重な新資料を紹介しつつ、日中戦争期における国際関係について、特にソ連要因と中国共産党要因との関連を重視した観点から新しい知見を提示した。

研究成果の概要（英文）：I devoted myself to this research while overcoming the obstacles caused by the COVID-19 pandemic,and built a foundation of historical material for comprehensively clarifying the issues. On this basis, I have participated in 11 academic conferences, published 5 academic papers, co-authored 3 books, and authored 1 book independently. I have also participated in speeches by civil society organizations and NHK special programs. These achievements have been positively evaluated in the academic community, and single book consolidating the essence of my research, has been selected for the 2024 Research Results Dissemination Promotion Fund (Academic Books) and will be published by the University of Tokyo Press. The overseas academic community is also paying close attention to this study, and opportunity to publish my book in Chinese has also been extended to me.

研究分野：社会科学

キーワード：日本　中国　ソ連　コミンテルン　中国共産党　中国国民党　抗日　防共

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

（1）日中両国は、1931 年 9 月の満洲事変を起点に激しい紛争に突入し、1937 年 7 月の盧溝橋事件を契機に、1945 年 8 月まで全面戦争を戦った。その間、中国では、中国国民党と中国共産党という二大勢力が、「日本の侵略に抵抗する」という共通の目的により協力を図る一方、ソ連とコミンテルンへの態度の相違や主義主張の対立などを背景に争っている。双方は自党の立場を有利にし、相手に打撃を与えるよう、敵国である日本を利用する面もあった。要するに、日中戦争は実質的には「日中ソ三国および国共両党」という「三国四方による戦争」であり、各ファクターには敵対だけでなく、それぞれの思惑に基づく「協調」もあった。

（2）こうした三国四方の戦争について、全般の究明を目指す体系的な学術研究がいまだに行なわれていなかった。その主要因は次の 2 点にあったと考えられる。①学界は、日本と中国国民党およびそれが率いる国民政府との相互関係の研究を重視し、その中におけるソ連要因と中国共産党要因の研究を軽視する傾向があった。②中国では同課題の研究は「中国共産党こそ抗日戦争の最大の功労者である」という歴史観を立証させることに限定し、それ以外の側面に関する探究が政治化されるリスクがあるため、学者の研究意欲を損なっている。

２．研究の目的

上記の現状を踏まえて、本研究は、多面的な資料の使用と複眼的視点による考察により、下記の問題を学術的に解明することによって、日中戦争の全体像の復元に寄与し、現在の日中関係への理解と双方の和解を促進することに貢献することを目指している。

①日本（政府・軍部）はソ連と中国共産党をどう認識し、どう対応したのか。

②中国国民党が率いる国民政府は「抗日」と「防共」の相互関係をどう認識し、どう対応したのか。

③ソ連とその指導下のコミンテルンおよび中国共産党は日中関係をどう認識し、どう対応したのか。

④抗日と防共をめぐる三国四方の矛盾はどのような結果を日中関係にもたらし、そして昨今の日中関係にどのような影響を及ぼしているのか。

３．研究の方法

（１）当初の方法

①一次資料を十分に入手することが本研究の先決条件であるため、下記の機構で一次資料を綿密に調査する。A.中国：北京図書館や北京大学、南開大学、南京大学などの大学図書館で「中共抗日根拠地資料集」類の非売品を調査しつつ、省、市、県ら地方の档案館で館内

閲覧が可能である資料を収集する。B.日本：国会図書館、外務省外交史料館、防衛省防衛研究所、公文書館およびアジア歴史資料センター、東洋文庫などを中心に、本研究に関する資料を収集する。C.台湾：国史館、国民党党史館、中央研究院を中心に、所蔵の中国共産党関連の資料を収集する。D.米国：国家図書館所蔵の旧日本陸海軍資料、スタンフォード大学等所蔵の関連資料、カリフォルニア大学ロサンゼルス校所蔵の中国共産党文書を収集する。E.ロシア：対外政策公文書館、現代史文書保存センターを中心に、所蔵の中国共産党資料とコミンテルン資料を収集する。

②本課題は政治化されがちであるとともに、正反対の固定観念および「侵略と抵抗」に単純化された枠組みという障害に直面している。そのため、政治性を排除し学術的研究に徹する姿勢を貫きつつ、固定観念と既存の枠組みによる妨げを克服し、複眼的視点による多角的な考察に努める。

③対象時期の重大な出来事をめぐる三国四方の相互作用の究明に重点を置き、ミクロ・ヒストリーの方法とマクロ・ヒストリーの方法を相互補完的に駆使し、ケーススタディーを通して、相互関係の全貌を描き出す。

④年度ごとに明確な研究項目を目標として設定し、研究で得た成果をまず学術論文や学会報告として発表し、最後に著書にまとめて内外への発信に努める。

（２）状況の変化に対応するための調整

本研究の開始以降、三つの変化に直面した。①日中関係の研究者が調査にあたって現地で拘束または行方不明になり、スパイや機密盗取の罪に問われたという報道が相次いだ。②2019 年年末からコロナ禍が蔓延し、それに伴う行動規制が厳しく実施され、海外は勿論、国内での現地調査がほぼ不可能となった。③2022 年 2 月、ロシアの侵攻によるウクライナ戦争が勃発し、現在まで継続している。よって、2023 年 3 月より防疫のための規制が緩和されたが、ロシアでの調査は引き続きできないでいる。

計画当初予想できなかった上記の諸変化に対応するため、次のような調整措置を取った。①現地調査が不可能となった期間では、まず関係機構の HP で入手できる資料の収集に努力する。②規制緩和後の 2023 年度では米国と台湾での調査を積極的に行ない、中国での調査を補足的にやり、戦争中のロシアでの調査を断念する。③「研究目的」欄の第１、2、4 の問題に対する研究を優先的に行う。第 3 の問題に関する研究はまずソ連に絞り、その他を後回しにする。

４．研究成果

（１）学会発表（計 11 件）①Changing official narratives and the rising status of the Resistance War History : the development of Resistance War History in China since 1949 （2018 オクスフォード大学中国センター主催の国際学術会議“Memories of the World War Two”・国際学会)。 ②中日外交角逐重大節點的考析（2018 中国社会科学院近代史研究所主催の「第 7 回近代中外関係史国際シンポジウム」・国際学会）。③如何戦

勝敵国――中日外交戦略的対立及其結局 （2018 復旦大学歴史学部講演会・招待講演)。④日本の学界における戦時中国共産党史の研究（2019 「抗日戦争史研究 70 年:回顧と展望」学術会議・国際学会）。⑤“The Japanese Issue in CPC-KMT Relations during the Post-War Years”（2019 オクスフォード大学中国研究センターでの報告）⑥1931-33 年間における国民政府の対日政策を如何に評価するか――五つの段階と三点の注意（2021 南京大学ほか主催「九一八事変 90 周年国際シンポジウム」・国際学会）。⑦“防共”概念をめくる日中間の攻防:1937 年 7-9 月間の史実の一考察（2021 中国社会科学院近代史研究所主催「第 4 回『近代中国と世界』国際学術シンポジウム・国際学会)。⑧中国国民政府の対ソ認識とその政策決定におけるソ連要因 （2023 東アジア近代史学会主催、大会シンポジウム「東アジア近代史における「ロシア」という存在」・招待講演）。⑨太平洋戦争前夜における蒋介石の対日誤判 （2023 南京大学中華民国史研究センター主催、国際シンポジウム「中華民族復興視域下的民国史研究」・国際学会)。⑩Multilateral involvement or bilateral bargaining: Re-examination of key timings in the strategic game between China and Japan (1931-1941) （2024 the International Conference on Guomindang at 100th at Department of Asian and North African Studies(イタリア、Ca' Foscari University of Venice 国際学会）。⑪中台対峙の形成過程における日本要因：国共両党の対応と認識を中心に（2024〔11 月予定〕台湾・中央研究院近代史研究所主催国際シンポジウム「冷戦與當代的東亞秩序(1950-1989)」・国際学会)

（2）雑誌論文（計 5 件）①日本全面侵華前夕對華態度新探(日中全面戦争前夜日本の対中態度の再検討) （2020 『歴史研究』)。②従日徳防共協定到中蘇絶対密件的多辺博弈及影響(日独防共協定から中ソ絶対密件に至る期間における多国間競合とその影響)（2022 『抗日戦争研究』)。③中蘇締約後國民政府路徑分岐的發展與終結 （2022 『抗日戦争研究』)。④虚實相輔與正反併用:圍繞防共話語的中日攻防（2022 『南開史学』)。⑤中国国民政府の対ソ認識とその政策決定におけるソ連要因（2024 『東アジア近代史』）

（3）共著書（計 3 件）①『ハンドブック近代中国外交史』(2019 ミネルヴァ書房)。②『邁向和解之路:中日戦争的再検討』(2019 台湾稲香出版社)。③『抗戰與中國的命運』(『重探抗戰史』第 3 巻) (2022 台北聯経出版事業有限公司)。

（4）単著書『日中全面戦争に至る中国の選択 1933-1937:「防共」と「抗日」をめぐる葛藤』(2024〔12 月予定〕東京大学出版会）

（5）社会への発信 ①NHK の取材に協力し、NHK スペシャル「開戦 太平洋戦争 日中英米知られさる攻防」(2021 年 8 月 15 日放送)と NHK BS1 スペシャル「完全版 開戦 太平洋戦争 日中英米知られざる攻防」(2021 年 12 月 30 日放送)の制作に識見と資料を提供しつつ、出演した。②2023 年 7 月、日中友好神奈川県婦人連絡会主催の「７・７盧溝橋事件記念の集い」で「日中戦争はなぜ回避できなかったのか」という講演を行なった。

（6）研究成果の国内外における位置づけとインパクト 本研究は国内外の学界では初めての試みであり、その成果は、主に下記の四点により斬新さと独自性が高いと評価されて

いる。そのため、集大成的な単著書は2024年度の研究成果公開促進費（学術図書）に採択され、東京大学出版会より出版されることになっている。また、海外でも本研究の成果に対する注目度が高く、単著書の中国語版の出版について依頼を受けている。

①「防共」と「抗日」の優先順位をめぐる蔣介石と国民政府の葛藤という新しい視角から、従来見落とされた中国の対日・対ソ政策の重要な側面と、日中関係における中国共産党要因とソ連要因を実証的に解明し、三国四方による日中戦争の歴史に存在している空白の一部を埋めた。

②政策研究と人物研究の相互補完、中国政治外交史研究と日本政治外交史研究の相互補完、二国間関係の研究と多国間関係研究の相互補完を図るとともに、公文書と私文書の照合による歴史研究のあり方を模索した。

③日中戦争の勃発と拡大について、特にソ連要因と中国共産党要因との関連を重視した視角から新しい知見を提示した。

④関連成果は、NHKスペシャル「開戦　太平洋戦争～日中知られざる攻防」により大きく取り上げられ、学界だけでなく、一般社会においても大きな反響を引き起こした。

（7）今後の展望　期限を迎えたため、本研究はこの報告書の提出により一段落になったが、集めた資料には新しい成果を生まれる可能性が十分にある。特に、①終戦前後における日本と中国共産党の相互関係、②中国大陸と台湾の対峙局面の形成過程における日本要因、③「①」と「②」から見た日中関係の現在への日中戦争の影響、という三つの課題は、研究の継続により多くの新しい発見に繋がると思われる。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計5件（うち査読付論文　4件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 鹿錫俊	４．巻 28号
２．論文標題 中国国民政府の対ソ認識とその政策決定におけるソ連要因（学会依頼論文）	５．発行年 2024年
３．雑誌名 東アジア近代史	６．最初と最後の頁 1～19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 鹿錫俊	４．巻 総第125号
２．論文標題 中蘇締約後國民政府路徑分岐的發展與終結	５．発行年 2022年
３．雑誌名 抗日戦争研究	６．最初と最後の頁 4～29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 鹿錫俊	４．巻 総第34号
２．論文標題 虚實相輔與正反併用：圍繞防共話語的中日攻防	５．発行年 2022年
３．雑誌名 南開史学	６．最初と最後の頁 105～130
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 鹿錫俊	４．巻 総第123号
２．論文標題 従日徳防共協定到中蘇絶對密件的多邊競合及影響（日独防共協定から中ソ絶対密件に至る期間における多国間競合とその影響）	５．発行年 2022年
３．雑誌名 『抗日戦争研究』	６．最初と最後の頁 14～38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 鹿錫俊	４．巻 総第388号
２．論文標題 日本全面侵華前夕對華態度新探（日中全面戦争前夜日本の対中態度の再検討）	５．発行年 2020年
３．雑誌名 （中国歴史研究院）『歴史研究』	６．最初と最後の頁 93～117
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計11件（うち招待講演　3件／うち国際学会　8件）

１．発表者名 鹿錫俊
２．発表標題 中台対峙の形成過程における日本要因：国共両党の対応と認識を中心に
３．学会等名 台湾・中央研究院近代史研究所主催国際シンポジウム「冷戰與當代的東亞秩序(1950-1989)」（国際学会）
４．発表年 2024年

１．発表者名 鹿錫俊
２．発表標題 Multilateral involvement or bilateral bargaining: Re-examination of key timings in the strategic game between China and Japan
３．学会等名 the International Conference on Guomindang at 100th at Department of Asian and North African Studies(イタリア、Ca' Foscari University of Venice（国際学会）
４．発表年 2024年

１．発表者名 鹿錫俊
２．発表標題 太平洋戦争前夜における蒋介石の対日誤判
３．学会等名 南京大学中華民国史研究センター主催、国際シンポジウム「中華民族復興視域下的民国史研究」（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 鹿錫俊
２．発表標題 中国国民政府の対ソ認識とその政策決定におけるソ連要因
３．学会等名 東アジア近代史学会主催、大会シンポジウム「東アジア近代史における「ロシア」という存在」（招待講演）
４．発表年 2023年

１．発表者名 鹿 錫俊
２．発表標題 1931－33年間における国民政府の対日政策を如何に評価するか――五つの段階と三点の注意
３．学会等名 南京大学ほか主催「九一八事変90周年国際シンポジウム」（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 鹿錫俊
２．発表標題 「防共」概念をめぐる日中間の攻防：1937年7～９月間の史実の一考察
３．学会等名 中国社会科学院近代史研究所主催「第4回『近代中国と世界』国際学術シンポジウム（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 鹿錫俊
２．発表標題 The Japanese Issue in CPC-KMT Relations during the Post-War Years
３．学会等名 オクスフォード大学中国研究センターでの報告（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 鹿錫俊
２．発表標題 日本学界對戦時中国共産党史的研究（日本の学界における戦時中国共産党史の研究）
３．学会等名 「抗日戦争史研究70年：回顧と展望」学術研究会儀（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 鹿錫俊
２．発表標題 Changing official narratives and the rising status of the Resistance War History : the development of Resistance War History in China since 1949
３．学会等名 オクスフォード大学中国センター主催の国際学術会議“Memories of the World War Two”（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 鹿錫俊
２．発表標題 中日外交角逐重大節點的考析
３．学会等名 中国社会科学院近代史研究所主催の「第７回近代中外関係史国際シンポジウム」（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 鹿錫俊
２．発表標題 如何戦勝敵国ーー中日外交戦略的対立及其結局
３．学会等名 復旦大学歴史学部講演会（招待講演）
４．発表年 2018年

〔図書〕　計4件

1．著者名 鹿錫俊	4．発行年 2024年
2．出版社 東京大学出版会	5．総ページ数 328
3．書名 日中全面戦争に至る中国の選択　1933-1937:「防共」と「抗日」をめくる葛藤	

1．著者名 郭岱君主編　肖如平、林孝庭、鹿錫俊ほか共著	4．発行年 2022年
2．出版社 （台北）聯経出版事業有限公司	5．総ページ数 532
3．書名 抗戰與中國的命運（『重探抗戰史』第3卷）	

1．著者名 岡本　隆司、箱田恵子、鹿錫俊ほか共著	4．発行年 2019年
2．出版社 ミネルヴァ書房	5．総ページ数 264
3．書名 ハンドブック近代中国外交史	

1．著者名 黄自進、松浦正孝、鹿錫俊ほか共著	4．発行年 2019年
2．出版社 （台湾）稲香出版社	5．総ページ数 1060
3．書名 邁向和解之路：中日戦争の再検討	

〔産業財産権〕

〔その他〕

大東文化大学教員情報 https://dtbr1.acoffice.biz/dbuhp/KgApp?kyoinId=ymkkgygsggy www.daito.ac.jp https://www.daito.ac.jp/

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
米国	スタンフォード大学フーバー研究所			
中国	中国社会科学院近代史研究所			
中国	中国社会科学院近代史研究所			
中国	中国社会科学院近代史研究所			
その他の国・地域	（台湾）中央研究院近代史研究所			
米国	スタンフォード大学フーバー研究所			
中国	中国社会科学院近代史研究所			